

甲状腺外科草子 110

中津の西洋医学：村上医家

杉野圭三

中津には大江医家資料館の他に**村上医家資料館**もある。散策ルートは大江医家資料館を出て福沢諭吉旧家・福沢記念館、中津城の順に巡り、中津駅へと回遊するのが良い。



福沢記念館

中津城

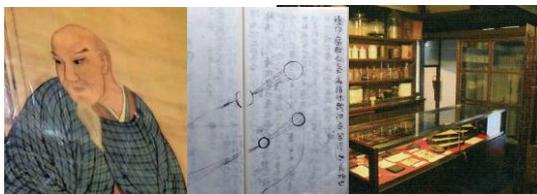
中津駅に向かう途中にある村上記念病院は村上医家末裔との情報あり（不詳）。



村上医家資料館

村上医家末裔？

村上医家資料館には初代村上宗伯が1640年開業以来、数千点の資料が残され展示されている。特に七代目の村上玄水は九州地方で人体解剖を行ったことで知られている。



村上玄水

スケッチ

薬局

村上玄水（1781年—1843年）は中津藩御典医・村上玄秀の長男として生まれ、1796年に進脩館に入る。漢詩の写本も残り、医学以外にも兵法・軍学、天文学、地理学などにも深い興味を示し、「軍法極秘傳書」、「孫子提要」などが残されている。

玄水による人体解剖は1819年、山脇東洋による日本初の人体解剖（1754年）から遅れること65年であった。

この時の解剖には各地から57名の医師が

見学を訪れ、朝から夕方まで行われた。執刀は玄水、中津藩の画員片山東籬と助手の佐久間玉江が解剖図を描いた。

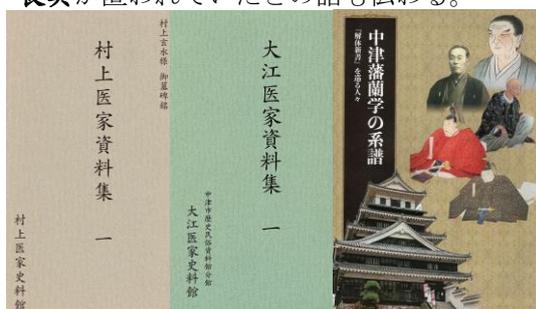


解臍記

下書きのスケッチ

玄水はこの成果を「**解剖図説**」として完成させようとしたが、その後病気となり出版が延びることとなった。1827—1828年頃、玄水は「解剖図説」の原稿を豊後日出藩の蘭学に詳しい医学者である**帆足万里**に送り、意見と序文を求めた。1830年、玄水は**宇田川玄真**にも助言を求めているが、宇田川玄真は1835年に死去。現在、「解剖図説」の原本は失われ、下書きの「**解臍記**」とスケッチの実みが残され、展示されている。

玄水はシーボルトとも面識があったようである。**シーボルト事件**など難しい時勢の影響もあり出版が難航した可能性も考えられる。村上家には、この事件に関わり逃亡中の**高野長英**が匿われていたとの話も伝わる。



村上医家資料集

大江医家資料集

中津藩蘭学の系譜

巷で有名な福沢記念館や中津城には資料が少なく内部撮影禁止などもあり残念であったが、大江医家資料館と村上医家資料館は想像以上のお宝の山で大満足だった。

炎天下、「**中津で2万歩**」の苦行だったが、中津の知られざる貴重な文化遺産と確信した。

参考資料：Wikipedia、村上医家資料集、

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2024年8月21日